

# 北近畿豊岡自動車道「豊岡道路」懇談会（第3回）

## 議事要旨

1. 日時 平成20年6月13日（金） 14:00～
2. 場所 じばさん TAJIMA 4F 経営研修室
3. 出席者

座長	流通科学大学情報学部経済情報学科教授	西井 和夫
委員	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	中瀬 勲
	兵庫県立コウノトリの郷公園田園生態研究部 主任研究員	大迫 義人
	豊岡市区長連合会会長	日下部 昌男
	豊岡市五荘地区区長会長	白谷 光利
	豊岡市奈佐地区区長会長	竹中 誠男
	豊岡市八条地区区長会長	尾畑 富久雄
	但馬豊岡観光協議会会長	西村 肇
	兵庫県但馬県民局県土整備部豊岡土木事務所長	大塚 純斎
	豊岡市都市整備部長	黒坂 勇
		(代理 中貝 稔)
	豊岡市コウノトリ共生部長	太田垣 秀典
	豊岡河川国道事務所長	齋藤 博之
	[欠席者：豊岡商工会議所会頭 宮垣 和生]	

事務局 国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所 工務第二課
4. はじめに
  - 1) 開会挨拶
  - 2) 新委員の紹介
  - 3) 座長挨拶
5. 議事要旨（主な意見）
  - 1) 第2回懇談会での意見と対応について
    - ・（鹿児島県出水市のツルでの模型実験の紹介に関して）コウノトリとツルとでは生態、習性が異なるため、コウノトリの生態に即して考えていくべきである。
    - ・ 構造物への慣れはツルと同じぐらい早く起こる。
    - ・ 今回提示されたルート帯の中では平野部を通過する区間が問題である。特に、②案と③案は現在、コウノトリがよく利用している区域を通過する。

①案が横断する箇所はまだコウノトリの餌場にはなっていない。将来、「コウノトリ育む農法」等が広がると餌場も広がる可能性はある。

- ・ 平野部を通過する区間は、例えばトンネル構造とし、中が見えない、かつコウノトリと車との衝突事故を防ぐ配慮が必要である。構造についてはコウノトリの習性を十分配慮して決定すべきである。

## 2) 「概略ルート (案)」について

- ・ これまでの懇談会での議論等を踏まえ、1.5km の幅の中から3案を提案した。なお、豊岡市清掃センターは、移転が決定したため、コントロールポイントから除外した。
- ・ 生物多様性の創造、維持、保全をキーワードとし、環境全体に配慮した道路づくりを積極的に打ち出すべきである。また、それらを考慮してルート帯案の評価をすべきである。
- ・ 基本的には①案が景観面ではすっきりしている。隠すデザインではなく、魅力的な景観の創出という積極的な取り組みを行ってはどうか。
- ・ 環境も大事だが、近年、食料自給率の確保が重要視されており、田圃や畑を壊さない道路計画とすべきである。
- ・ 景観には、内部からの景観と外部からの景観がある。ドライバーの視点(走っていて楽しい道路)に対する配慮も重要である。
- ・ ルートとしては自然環境、軟弱地盤、アクセスのポイント等を考慮すれば、①案がよい。一日も早く実現してもらうことを切望している。
- ・ 点在している墓地への影響がないか心配している。ルート帯に関する詳細検討に際しては、配慮事項の一つとして整理してほしい。

## 3) 「懇談会とりまとめ骨子 (素案)」について

- ・ 円山川等で大型の公共投資が行われているが、豊岡の経済は沈滞している。地域への経済効果が見えない。それが見えれば地元ももっと協力するのではないか。
- ・ 「自然環境希少種」は「生物多様性の保全」に替えるべき。

## 6. 今後の予定

- ・ 次回懇談会は、7月下旬～8月頃を目処に調整。

以 上